

34

改造

34

差〜

水にちかひたぬ。女はわしは世山君の美し  
 い友情を金に想へてしまつた。わしは幸福を  
 心で思ひ、子供たちの天の幸を思ふ。幸福を  
 思ふ時、わしは人すらしいわしの心を聖い處に  
 賣らおけらばおすおつた。わしは死にか、  
 つた今日にぶつて、金のことはこのり考へお  
 けれは、おぬにぶつた。  
 光子 もつたいおことづい、おつた。あつた  
 心で思ふ、おぬの血を吐いてお、荒一井の時にお  
 藤川はおおたに竹筆と紙を突きつけました。

秀作

いや、わしには結局藤川のあの強  
 醜おやり方が仕合せであつた。わしは病氣い  
 ちかひたぬ。おぬの血を吐いてお、荒一井の時にお  
 藤川はおおたに竹筆と紙を突きつけました。

おぬは藤川の血を吐いてお、荒一井の時にお  
おぬは藤川の血を吐いてお、荒一井の時にお  
おぬは藤川の血を吐いてお、荒一井の時にお  
おぬは藤川の血を吐いてお、荒一井の時にお  
おぬは藤川の血を吐いてお、荒一井の時にお  
おぬは藤川の血を吐いてお、荒一井の時にお  
おぬは藤川の血を吐いてお、荒一井の時にお  
おぬは藤川の血を吐いてお、荒一井の時にお

金の~~無~~替へるわしの醜い心に  
 神の鞭がきたるわしを想つた。わ  
 しはあやうく血を吐いてお、荒一井の時にお  
 藤川はおおたに竹筆と紙を突きつけました。

君の友情に對しての申しわけなくとも考へておる。

MARUZEN I

